2010年大活躍！西原なぎなた界のホープにインタビュー

2010年のスポーツ界も、たくさんの西原町民が活躍した年でした。その中で、ひときわ活躍が目立ったなぎなた競技。いまや西原町はバレーボールやマーチングバンドに匹敵するほど「なぎなたの町」として知られるようになりました。

そんな中、もっとも輝きを見せたのが城間望さんと石原舞子さん（ともに首里高）。2人は子どものときからなぎなたの腕を磨き、首里高へ進学後も順調に実力をつけてきました。

2010年はインターハイに出場。国体の選抜メンバーにも選ばれると、少年女子試合の団体で海邦国体以来、23年ぶりの全国優勝を果たしました。大活躍だった2人に、国体を振り返ってお話をうかがいました。

国体の優勝報告をする城間望さん（下段中央左）と石原舞子さん（下段中央右）

国体に向けて強化練習

―優勝したときのお気持ちはどうでしたか？

城間望さん（以下、城間）：高校最後の大会である国体にかける気持ちが大きかったので、優勝したときは嬉しかったです。

石原舞子さん（以下、石原）：今まで練習では足を引っ張ってきたという気持ちがあったので、大会では人一倍活躍したいと思っていた。苦しい試合が続いたが、みんなで優勝を勝ち取れて嬉しかったです。

―最初から優勝を狙っていました？

2人：はい！（笑）

―大会の中で、一番印象に残っている試合は？

城間：準々決勝で対戦した大阪は、去年の優勝チームで実力のあるチーム。そこが大きなヤマでした。決勝の熊本戦は、九州大会で負けて悔しい思いをした相手に対しリベンジできました。

石原：決勝戦で相手に負けてしまい、すごく悔しい思いをしました。相手のペースで試合をしてしまい、泣きそうになるぐらいに悔しかったのですが、中堅、大将のみんながすごくがんばってくれて、逆転で勝てました。

―大会に向け、相当練習したと思いますが。

城間：チームには高校が違うメンバーもいて、チームワークで苦労がありました。先輩方のメンタルな部分でのアドバイスなど、たくさんのサポートがありました。

石原：毎回先輩や先生方が、自分の練習もある中でも練習相手になってもらい、胸を貸してくれたことで成長することができました。毎日の稽古の積み重ねでここまでこれたと思います。

―「なぎなた」をやっていて、何を学びましたか？

城間：なぎなたをやってなかったら、目標を持ってここまで頑張れるようなことはなかったと思います。たくさんの人に支えられてここまできたんだなと思いますし、それに対するありがたさを感じることができました。

石原：なぎなたをやってなかったら、傲慢になっていたと思います。自分に甘い部分があったけど、なぎなたの稽古や日常生活で精神的に正すことができて、何事にも一生懸命に頑張るという姿勢を学んだと思います。

―なぎなたを始めたきっかけは？

城間：小学3年のとき、友達に誘われて剣道なぎなた大会に出場したことがきっかけです。初めてなぎなたをやってみて、楽しかったので。

石原：同じ小学3年のとき、親戚のお姉ちゃんに誘われたことがきっかけです。

―今後の将来の夢や目標は？

城間：今まで自分はいろいろな人に支えられて活躍できたので、これからはいろんな人の支えになれるよう、看護師になりたいという将来の夢に向かって頑張りたい。なぎなたで培われた忍耐力や精神力を生かしていきたいです。

石原：今回の優勝で、自分に自信がついた。これからもいろんなことにチャレンジしていきたいです。

―なぎなたを応援してくれた西原町民へメッセージをお願いします。

城間：西原は、これまで先輩方の築き上げた歴史があり、バックアップなどの環境が頼もしいです。遠征や大会参加のたびに資金援助や応援などのサポートをしていただき、ずっと支えてもらったことをありがたく思います。西原町に生まれてよかったなと思います！

石原：これまで毎回激励や応援をいただき、選手としてとても心強かったです。これからも頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします！

2010年 町民のなぎなた競技における活躍

- 美ら島沖縄総体、演技競技で米須陽香(知念高3年)が優勝、小谷夏季・玉那覇梨奈(同2年)が準優勝。団体優勝メンバーの米須は2冠を達成。
- ＪＯＣ全国中学生なぎなた大会で、演技の部で米須千祥(ゆきな)玉那覇葉月(西原東中)組が優勝。慶留間幸音、新里奈々、稲福和香奈(すべて西原東中)が団体に出場５位。慶留間が個人５位入賞。
- 全日本少年少女武道（なぎなた）錬成大会で、演技の部で米城映里花(西小６年)瀬長桃子(同５年)組が２位、仲里美優(坂田小６年)喜久山彩恵(西小５年)組が３位に入賞、瀬長は個人で３位。
- 千葉国体の選抜メンバーに、少年の部(高校)で城間望・石原舞子が、青年の部(一般)で甲斐田美根子と末吉梓が選出。
- 千葉国体、少年女子試合で城間望・石原舞子(ともに首里高)らが団体戦優勝。

（敬称略）

平成23年2月5日（土）は「西原町教育の日」です！

平成23年２月５日（土）は「西原町教育の日」です。教育に対する意識と関心を一層高め、名実共に「文教のまち西原」の充実を図る事を目的として設定しています。午前中は各学校における授業参観、午後は全体会で次のように予定しています。

多くの町民のみなさまのご参加をお願いします。

○期　日

平成23年２月５日（土）　午前９時～午後４時45分

○場　所

午前【授業参観】：各幼稚園・小・中学校

午後【全 体 会】：西原中学校体育館

○日　程

表　彰
・町青少年健全育成協議会表彰
・教育実践賞

午前9時		正午 1:30	1:50		2:45		4:00		4:45
授業参観（幼小中学校）	下校	受付	開会行事	実践発表	教育講演会	休憩	表彰	閉会行事

実践発表会
1　学校教育部
　西原中学校区実践発表　（西原中学校）
　西原東中学校区実践発表（西原幼稚園）
2　地域教育部会
　町子ども会育成連絡協議会

内間御殿・国指定文化財決定！
演題：「尚円王の生い立ちと内間御殿」
講師：高良倉吉氏（ 琉球大学教授 ）

※駐車スペースに限りがありますので、乗り合い、または、公共の交通機関をご利用ください。

多くのみなさまのご参加をお待ちしています！

お問い合わせ：町教育委員会　教育部学校教育課　☎ 945-5039

ペルーへ移住した西原町民の軌跡を展示

「写真で見るペルー移民の100年」写真展が11月16日から12月5日、町立図書館で開催され、1900年代から始まった移民の歴史を知る貴重な資料約250点が展示されました。展示品は、海外移住者子弟の研修生として来町した仲宗根フェルナンド吉修さん（写真）が母国のペルーから持参し、町へ提供した資料約6,000点から厳選したもの。仲宗根さんは「移民の歴史を紹介するだけでなく、資料をきっかけにしてペルーと西原の懸け橋を作りたい」と抱負を述べました。

【動画】町HP「さわふじチャンネル」で公開中

折り紙が描く、和の世界を展示

にしはらおりがみサークル（岸本ヨシ子代表）は、結成3周年を迎え「鶴いろいろ　折り紙の世界」と題した展示会を、11月9日から14日、町立図書館で開催しました。展示会には大小さまざまな折り紙作品70点余りが出品され、訪れる方の目を楽しませていました。展示品の中でもっとも大きな作品「平和鶴」は会員8名が協力し、平和の祈りを込めて作成した合作で、6638羽の折鶴で平和の文字を描いた作品。岸本さんらの「町の平和行政に活用してほしい」との要望で、「平和鶴」はサークルから町へ寄贈されました。